

市民と市議会との意見交換会開催結果（概要）

市民と市議会との意見交換会が10月2日に市民会館と別府センター、10月3日に城山センターと立神センターで行われました。

まず、テーマに沿った意見交換会を行い、その後、自由討論を行いました。

意見交換会の主なやりとり等については次のとおりです。

なお、意見交換会の開催結果については、議長から市長へ送付しています。

テーマ 少子高齢化社会において枕崎が生き残るために何をすべきか

[主な質問・意見]

※【】書きについては、議会で検討後、補足したものです。

問 子供を育てるにはお金が必要、第3子から医療費、学費などすべて無料にできるような施策、人口を増やすことを考えてほしい。

人がいないと企業も誘致できないのでは。

答 市では有識者で地方創生審議会をつくり、1年間話し合われた。

また、人口ビジョン・地方創生総合戦略を立て、総合戦略をはじめとした各種計画の施策を推進していくことを前提として、平成37年の目標人口を2万人としている。

問 少子高齢化は今始まったことではない。ちょっとしたアイデアで頑張っている地域もある。まちの魅力は住んでいる人がつくるもの。年をとると体も弱り医療費などにお金がかかる。健康寿命を延ばしても、子供は急に増えないから、今できること、目に見えることをみんな一緒になってコツコツやっていくしかない。

答 議会も医療費の削減、健康寿命を延ばすためにはどうしたらいいか国保運営健全化・健康増進対策特別委員会を設置し取り組んでいる。

問 健康について、市民全員が自覚、意識を持つ。

議員が火付け役になり、仕向ける努力が必要ではないか。

答 健康まくらざき21を策定し目標を掲げ、行政、議会とも健康増進に取り組んでいるところである。

問 枕崎は、周りのまちからうらやましがられるが、本市の子供たちは地元の高校に行きたがらない。その辺を改善すれば少子化も違った方向に進むと思う。

答 本市の出生率は、一昨年 1.44、現在は 1.5 以上でいい方向にある。

【地元高校への入学を希望しない理由として、学習面において、的が絞れていないことが一因ではないかと考えている。】

問 ふるさと枕崎に戻り、養った知識や技術を活かした仕事ができるということに関し、市はどのような取り組みをしているのか。

答 枕崎版地方創生総合戦略を策定し、4つの柱を中心に取り組んでいるが、その中でも人口減少に歯止めをかけることが一番の目的と考えている。

問 市は、5年、10年後にはここまでは達成するという目標を掲げているのか。

答 今後の人口減少への目標を立て、平成 37 年には人口 2 万人を維持しようと取り組んでいる。

企業誘致や地場産業の活性化を図り、若い人たちの定住促進に取り組んでいる。

別府地区は農業地帯なので、農業をもっと盛んにしなければならない。若い新規就農者に対しては農業次世代人材投資事業（旧青年就農給付金事業）も行っており、昨年度は 8 名の方に対し給付があった。

農業従事者も 60 代以上の方が多いので、農業も衰退の一途をたどる可能性がある。今後は若い人たちが農業に従事し、農業生産を上げていかなければならない。

問 農業新聞で各地域に新しい人たちが（福岡・熊本など）が農業をやっているとあった。

別府地区も農業バンクの事業を進めているが、遊休地を活用した都会からの就農者への支援はどうなっているのか。

答 志布志市では農業公社を作って、他県からの就農者を支援している。枕崎も県の農業大学校等とタイアップし、新規就農者の支援を行っていかなければならない。

問 市道の土手などの草を刈る機械があるが、市のほうでリースしてくれないのか。

答 市のほうでは所持していない。南九州市知覧などは農業公社をつくって補助金を申請し機械を購入したりしている。今後、枕崎でも何とかできないか検討していく。

問 南日本新聞において枕崎高校の定員表示があったが、年々枕崎高校に進学する生徒が減少している。加世田高校等に進学する傾向が多いようである。川辺高校は、優秀な生徒には奨学金等が支給されている。北薩の高校でも奨学金を出しているようである。昔は枕崎高校からも有名大学に進んでいたのに、枕崎ではそのような施策を出さないのか、また、議会から教育委員会へ提言しているのか。

答 市にも公的な奨学金制度は設けられている。

枕崎高校においても、いろいろな方法をとって生徒の入学希望者を増やすことに努めているが、なかなか成果が得られていない。

問 なぜ枕崎高校に進学者が少ないのか。

答 枕崎高校が総合学科になってから 20 年になる。中学校から高校へ進学するとき、親御さんも進学校に行かせるとか専門的な学校に行かせるとか目標がはっきりさせづらかったのではないか。

問 議会側としては、有名・優秀な先生を連れてきてほしいと提言はしていないのか。もっと特色のある総合学科にしてほしい。枕崎に住んでいる者として、枕崎高校はいいよということを出してほしいと思う。

答 8月に総務文教委員会で枕崎高校と水産高校の調査を行った。我々も何とか盛り上げたいと思っている。議会に持ち帰って検討していく。

市では、人口ビジョン・地方創生総合戦略を立て、総合戦略をはじめとした各種計画の施策を推進していくこととしており、10年後の目標人口を2万人としている。

問 就職、進学、結婚等で枕崎市を離れた場合も枕崎に帰ってくるようにならないといけないと思うが、帰ってこない理由の一つに仕事がないということがあるのではないか。

答 枕崎の基幹産業は、今、外国人を雇用している状況である。また、建設業者等は、職人がいなくて規模が縮小している現状である。仕事はあるのに職人がいない、それはどういう理由なのかなど検討をしている。

企業の誘致数は、現在、11社163人の方が働いており、企業誘致のパフレットも作成している。

問 高齢者の我々はどう生きるかということを考える。子供に帰ってこいと言っても帰ってこないと言う。都会は高齢者に対して優遇措置があり、南さつま市も南九州市も温泉補助金があるのに枕崎はないのか。高齢者に対する補助を拡充してほしい。議会は提案していないのか。

枕崎に住む人に手厚くする施策を考えてほしい。

答 温泉の補助については、現在、市では、入港した外来船の船員に対して温泉補助券【船員入浴券】を発行している。

バス運行も経費がかかるので、乗合タクシーはどうか検討中である。

議会もいろいろと要望はしているが、業者との連携もあることから、今後も検討し提案していきたい。

問 働く場所が欲しい。Uターンに関するところで、出産、子育てに関する産婦人科を維持し、環境を整備し、出産に帰るために充実させてほしい。

答 市内の産婦人科を継続していくための補助制度を導入している。産科があるのとなしいのでは大きく違う。

問 本日出された貴重な意見を生かしてほしい。

答 対応していきたい。

問 人口減少対策として、これまで枕崎市はどのような取り組みをしてきたのか。

答 地方創生戦略の4つの柱を中心に、Uターン、Iターンなど枕崎市地方創生総合戦略を立て、さまざまな事業が計画されている。

問 人口減少対策の効果はどのようなものか。

答 2025年の本市の目標人口は2万人としている。

問 市外住民だが、枕崎市の筋トレサロンに従事し、枕崎市民と交流しているが、枕崎市は財源が少ないと聞くが、どうなのか。

答 枕崎市は自由に使えるお金が少ない。

地方交付税も県内19市の中で一番少ない。

本市の積立金は少ない。大災害がやってきたら、本市財政はもたないと思う。

問 学校給食の無料化はできないのか。

答 学校給食の無料化は長続きできないと政策としておかしくなる。
行政の施策・事業は、優先順位を決めてやっていかなければならない。

問 枕崎市民の所得のレベルは県内でどのくらいか。

答 県内でも上位にあり、最新データでは県下 19 市中 8 位となっている。

問 枕崎市の財政は県下で何番目か。

答 残念ながら最低であると思う。財政の見方はいろいろあると思うが、全般的には大変厳しい。

問 枕崎市民の所得のレベルは県内でどのくらいか。

答 県内でも上位にあり、最新データでは県下 19 市中 8 位となっている。

問 少子高齢化について、市議会では議論をしているのか。

答 市議会地方創生特別委員会を立ち上げ、6回の委員会を開催した。

問 野球場(フェンス・ラバー設置)及び総合体育館の整備計画はどうなっているのか。

答 施設整備ができずに福岡工業大学の野球キャンプも来なかったと聞いている。

○自由討論

問 市営野球場のフェンスラバーについて

- ・他市はスポーツ団体の誘致が積極的だ。誘致活動によって経済効果が図られる。
- ・企業名の看板を募り、コマーシャル収入を確保してはどうか。
- ・国の補助事業は活用できないのか。
- ・スポーツ施設は大事だが、限られた財源をいかにして確保し配分するのか。
- ・財源確保のために基幹産業の振興を図るなど、市民の意識啓発もすべきである。

答 スポーツ振興は大事な課題である。

多額の財源が必要と聞いているので、当局の見解等についてただしていきたい。

問 防災無線が聞きづらくわからない。

災害から身を守るのは市民一人一人の自覚が大事である。

答 戸別受信機は、1基当たり5～6万円が必要と聞いている。

現在、難聴地区もあるため、行政無線のデジタル化に伴い、各家庭への戸別受信機の設置を希望する公民館や団体の導入に向け、補助制度の在り方を検討している。

問 市民との意見交換会はいいことだが、行政を交えた市民会議はできないのか。

答 検討したい。(市長と語る会がある)

問 コンテナヤードの進捗状況はどうなっているか。

答 コンテナ施設整備に関する調査事業を継続実施しているが、明確な施設内容についてはいまだ示されていない。事業主体はどこになるのか、輸出品目は何になるのかなどが一番の課題となっている。

問 南薩地域広域ごみ焼却施設の状況はどうなっているか。

答 現在、ごみ焼却場は、南さつま市金峰町高橋が建設候補地となっている。平成36年度より本格稼働となるが、環境アセスメント調査・建設工事・試験運転の流れとなるが、時間的にあまり余裕がない状況である。

問 市外にごみ焼却施設が建設されると、内鍋のようにごみは直接持ち込めなくなる。この問題に対し、本市はどのように対応するのか。

答 本市内に一時的にごみを貯める中間処理施設等の設置について検討されていくものと思われる。

問 別府中学校は小規模校であり、部活動の数にも制限があるなど子供の可能性を狭めている状況があるが、中学校の統合についてはどのようになっているか。

答 南九州市の川辺中、知覧中は広域統合しているが、本市においては統合の話は出ていない。統合の基準というのも明確なものはない。しかし、PTA、教育委員会、議会の中でも今後議論していく必要性はあるものと思う。

問 献血に対して、本市ではどのように取り組んでいるのか。

答 献血の促進については、健康課と話し合い、取り組んでいきたい。

問 駒水集落において、将来的に最も不安なのが簡易水道の管理であるが、今後市の上水道で対応できないのか。

答 現在の水道課の見解は、駒水集落に市上水道を引くのは無理とのことである。将来的には別府地区にも市上水道で対応することが望ましい。
水道課に申し入れをする。

問 ごみ処理施設が遠くになれば持っていけないので、どうにかしてほしい。

答 ごみ処理施設は南さつま市金峰町高橋が候補地として内定したが、将来的には中間処理施設が本市に設けられるのではないかと伺っている。

問 枕崎港改修工事の中のコンテナヤードはどうなっているのか。

答 6月23日付で平成29年度から平成37年度までを期間とする枕崎地区特定漁港漁場整備計画が公表されたが、その中にコンテナ取扱施設の整備は含まれていない。
水産庁に確認したところ、今はまだ準備していないとの回答を受けている。

問 市民と市との裁判問題について、主文棄却の意味は。

答 裁判になじまない、訴える目的がなっていないのでは。
議会としては、この件については終了したものと整理している。

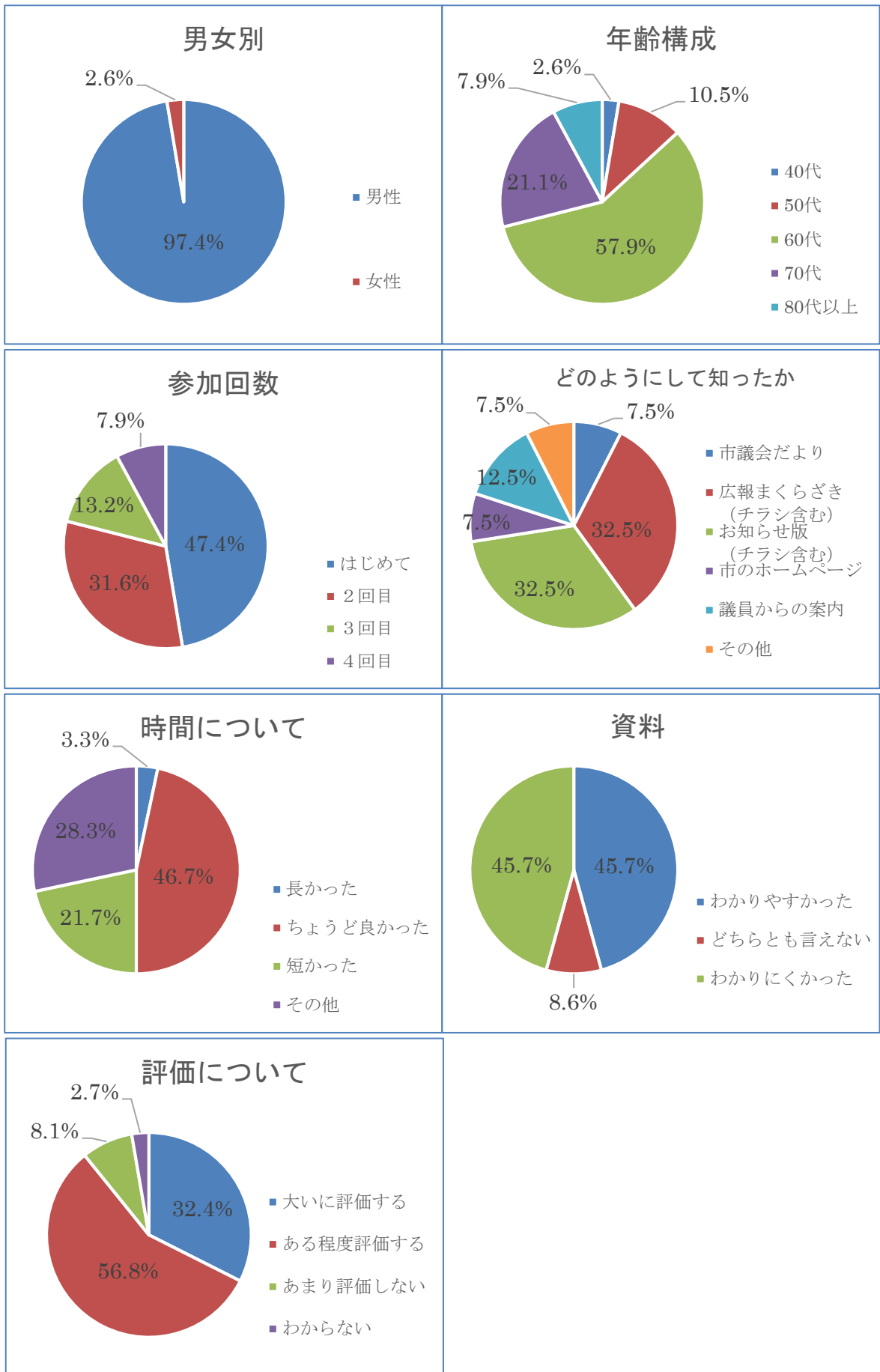
問 農政・土木関係未登記について486件、うち農政関係276件、土木関係210件あるということだが、議員としてどう考えるか。

答 担当課と打ち合わせし、調査する。

○意見・要望等

- ◇ 意見交換会でテーマを設定して市民から意見を聞いても、どうなるものでもない。少子高齢化の打開策を市議会側から提案してほしい。
- ◇ 健康寿命を延ばすためには、家庭での食事療法、塩分を控えることが大事と考える。市民運動会、文化祭に笑顔で参加することが健康寿命を延ばすことになると思う。
- ◇ 今の生活の状態は、今までの食生活の結果だということを管理栄養士から聞いたことがある。
議会はきょう、話し合われたことを取りまとめ分析し、反映して報告する責務がある。
- ◇ 議会傍聴をしていて、答弁を係長にさせる機会が多いように感ずる。主管の課長が行うべきだ。
- ◇ 市民と市議会との意見交換会を議会のガス抜きでやっているのであれば、やめたほうがいい。
- ◇ 本市が候補地として挙げたごみ処理施設は浄水場の近くにあるため、大勢の市民が水を飲むので、どうにかして内鍋山のほうで処理ができるようにしてほしい。
- ◇ 人口減少については、眺めているだけではよくない。自分ができることは何か。子供たちのことを思うと、何かしなければならぬと思っている。
- ◇ 行政と議会だけで話をしているようで、市民には伝わってきていない。
- ◇ 人口減少について、枕崎市独自の特色ある具体策を考えてほしい。

[アンケート調査の結果]



○今回の意見交換会について、何か気づいた点等

- ・ 少子高齢化の歯止めについては、お金のいることですので、非常に難しい。市が無くなることについては、仕方がないのではないかな？
- ・ 議論のテーマを絞ったのは良い。
- ・ 意見が多くて参考になった。
- ・ 参加者を増やす工夫は今後必要。
*ファシリテートの進め方についても、さらに磨きをかけていただきたい。
- ・ もっと議会（議員）が独自の考えを持ち、実行を伴った活動をしてほしい。国や他と同じ事を考えてもダメです！
市民と協力しあって頑張りましょう。
- ・ 市民の参加者が非常に少ないことに驚きを感じた。
- ・ 市議会が人口減少にどんな取り組みをしたかということが、あまり見られませんでした。
若い人の働く場を作る等。
- ・ 市民が主役。ひとりひとりの力を引き出せる様に頑張ってください。
情報公開の方法を検討してください。
- ・ 多くの意見が出て大変良かった。
- ・ 28年に比べ参加人数が少ない。（H28：16人→H29：13人）
テーマを設ける必要があるのか？→出席のハードルを高めていないかな？
- ・ 議員さんの答弁がよくて納得がいった。

○今後の意見交換会（テーマ含む）の内容、運営などについて

- ・ 市全体の意見交換は？
- ・ 継続することに大いに意義があるように思います。幅広い参加者を集めるためにも対決型（？）の議論ではなく、*ファシリテーションのやり方を工夫しては・・・。
- ・ またこのような意見交換会を開催してほしい。
- ・ 農村地区は9月、10月は忙しい時期なので、忙しくない時期に開催したらどうか？
- ・ 人口減に危機感を強く持った。

※ファシリテーションとは、会議等の集団活動がスムーズに進むように、また、成果が上がるように支援すること。